

## とやま民俗

No. 102

令和6年8月

## 近世富山城下町の人々の暮らし

— 近年の発掘調査成果から  
まじないを中心として —

堀沢 祐一

## はじめに

平成十七〜二十六年にかけて、平和通り（西は旅籠町交差点から東は西町交差点までの間）周辺の再開発に伴い「富山城下町遺跡主要部」の発掘調査が実施されている。この区域は富山城外堀の南側の富山城下町にあたり、その調査成果や絵図との照合によって武家屋敷地と町屋敷地を分ける背割水路が検出されるなど様々な遺構が確認されており、両屋敷地の様相がわかりつつある。

本稿では、遺跡の発掘調査成果を踏まえて両屋敷地の概要を述べ、あわせて、当時の生活の様相の一端として、筆者がこれまで研究テーマとしている「まじない」について触れてみたい。

次	近世富山城下町の人々の暮らし……………堀沢 祐一… 1
目	— 近年の発掘調査成果からまじないを中心として —
	本芳家の年中行事……………安カ川恵子… 7
	— 「お欽様」富山県登録無形民俗文化財第一号に登録 —
	昭和三十年代、里山のタクモン……………加藤享子… 14
	— 南砺市福光地域天神を中心として —
	民俗の窓…………… 18

一 各調査地の概要（調査地区名は便宜上建っている建築物の名称にし、調査年順に記載した。）

(一) 総曲輪フェリオ地区（図1の二〇〇五の箇所）<sup>(1)</sup>

平成十七年に富山城下町遺跡主要部で行われた初めての発掘調査にあたり、調査面積は二八一・一mである。十七世紀前半の溝が確認されているが、時期の主体は十九世紀前半であり、背割水路、土坑、井戸などが検出されており、調査地の北部分が武家屋敷地、南部分が町屋敷地に該当する。

武家屋敷地では屋敷地境の排水溝の可能性がある石組水路が検出され、背割水路と接続している。天保年間（一八三〇〜一八四四）の絵図との比較から西部分は戸田家、東部分は空白地と町会所にあたる。

町屋敷地では敷地裏手あたり、大型土坑はゴミ廃棄場とされている。また羽口や鉄滓の出土もあり小鍛冶が行われていたと考えられている。この地区は天保年間の絵図を見ると「一番町」と記載されている。両屋敷地とも建物跡は検出されていない。

出土遺物は越中瀬戸、伊万里、唐津、瀬戸美濃、土師器、石製品、金属製品、木製品などがある。木製品の出土点数が多く、漆器が二〇二点、下駄が九十九点、木札が一〇三点報告されている。武家屋敷地の土坑から天神板絵の一部が出土している。

富山民俗の会

〒930-0881

富山市安養坊五六甲の一

富山市民俗資料館内

- ・ 会費年額 四、〇〇〇円
- ・ 郵便振替口座 00740-5-12787

印刷／株式会社エッ